



平成29年度

# 学校評価

秋田県立西仙北高等学校

## 平成 29 年度 教育計画



秋田県立西仙北高等学校

校訓： 向学 友愛 強健

### 教育目標

21世紀をたくましく生き、社会に貢献する人間の育成

#### 目指す生徒像

- ・知性と教養を身に付け、自主性と創造性を持つ生徒
- ・思いやりの心を持ち、人格の尊さと協力の美しさを知る生徒
- ・強い意志と健やかな身体を持つ生徒

#### 目指す学校像

- ・生徒が生き生きと学ぶ学校
- ・地域から信頼される学校
- ・前に進み続ける学校

#### 重点目標と具体的な取り組み

- (1) 生徒指導体制の整備・充実
  - ①基本的なルールの遵守（規律、時間、情報モラルなど）
  - ②生徒自身が考え、行動し、達成感や自信を得る場面の設定
  - ③生徒を支援する体制の充実
- (2) 基礎学力を固め、意欲を引き出す授業の展開
  - ①授業を大切にしている態度の育成
  - ②授業アンケートや生徒の自己評価に基づく授業改善
  - ③生徒が主体的に活動する授業の実践
- (3) キャリア教育の改善・工夫
  - ①小・中学校とのつながりに配慮した指導
  - ②インターンシップや職場体験、オープンキャンパス参加などの奨励
  - ③校外で行われる交流会等への積極的な生徒参加
- (4) 特色ある教育活動の推進等
  - ①デンマーク社会福祉研修、朝読書、西高チャレンジの充実
  - ②ボランティア活動など地域と連携した活動の積極的な展開
  - ③部活動の振興、生徒会活動の充実
  - ④教育活動などに関する情報の積極的な発信

#### 生徒生活目標（よりよい生活をするために）

- ・将来の目標を定め、意欲を持って学習に取り組もう。
- ・生活のルールを守り、他人に対する思いやりの心を持とう。
- ・あいさつの習慣を身につけよう。
- ・欠席・欠課・遅刻をしないように心がけよう。
- ・服装・頭髪など身だしなみを整えよう。

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各分掌間の連絡調整を図り、儀式や学校行事の円滑な運営を図る。</li> <li>2 学校関係団体や地域との連携を図り、学校運営が適切に機能するように努める。</li> <li>3 学校安全対策を整備し、防災体制を強化する。</li> </ol>
------	---

現 状	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職員数の減少により、儀式や各種行事における運営体制がより適切に機能するよう配慮が必要である。</li> <li>2 P T A活動への参加者が例年少人数にとどまっている。</li> <li>3 防災教育・安全教育は実践的な取り組みが行われている。</li> </ol>
-----	---

具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 儀式や行事の企画段階において運営体制を明確にし、効率的な運営を心がけるとともに、より充実した内容になるよう尽力する。</li> <li>2 P T Aの主体的な活動を促し、参加者が増えるような活動を行う。</li> <li>3 防災教育・安全教育において、生徒が主体的に行動できるような計画を立てる。</li> </ol>
--------	--

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 儀式や学校行事の企画は、関係者の意見を反映させ、各担当が早期に準備できるよう、業務内容と分担を明確に示す。</li> <li>2 P T A役員を会員の投票制にして、協力的な役員を増やす。また活動内容を工夫し、学校行事にも関わる機会を設けるなど、学校への協力体制がより緊密になるよう心がける。</li> <li>3 防災委員会や地域と連携し、災害時に望ましい行動ができるよう実践的な研修内容と方法を検討する。</li> </ol>
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各種儀式や行事は、生徒・職員数の減少に対応した企画立案を行い、滞りなく実施することができた。</li> <li>2 P T A評議員の選出方法を改め、会員による投票制にすることで立候補者や協力的な役員を増やすことができた。また、西高祭の出店を行い会員間の親睦に努めた。</li> <li>3 校内防災訓練を3回(避難訓練、一斉メールによる安否確認訓練、シェイクアウト訓練)を実施し、生徒・職員の防災に対する意識を高めた。</li> </ol>
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・儀式や行事は総務部員や他分掌の職員から快く協力していただき、滞りなく実施できた。</li> <li>・P T A評議員を投票制にすることで、人選や依頼がし易くなった。しかしながら、P T Aの行事に参加する会員の割合は他校に比べ少ない。</li> </ul>
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B	総務の主な業務(儀式・P T A・防災・奨学金・職員会議・行事予定・広報)は遂行できた。P T A活動では次年度会員数が減少するが、学校と役員が連携して参加者数を増やすための工夫改善が必要になる。
------------------	---	--

評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	P T A評議員の選出方法を会員の投票制にするなど効率的な運営に取り組んでいる。学校行事案内やボランティア活動等地域連携の取組については、さらに広報活動の活性化を図ってほしい。
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後に記載)	<p>P T A参加率を高めるための方策として</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 評議員は引き続き投票制にして活動に協力的な役員を増やす。</li> <li>2 P T A研修の内容を見直し、会員の参加者が増えるような企画運営を行う。</li> <li>3 今年度の西高祭のように学校行事に参加する機会を設け、生徒と共に活動しながら会員の親睦を深められる機会を創出する。</li> </ol>
-------------------------------------	--

評価領域	教務部
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業を大切にできる態度の育成のため、各分掌と協力の上、生徒一人一人の学習意欲の向上を目指す。</li> <li>2 授業環境を整備し、生徒が主体的に活動する授業の実践につなげる。</li> <li>3 厳しい現状の中で特色ある教育活動の実践につながる教育課程を編成する。</li> </ol>
------	---

現 状	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 6年連続で入学者数が定員数を割っている。</li> <li>2 1年生の中間考査の平均点が7.9点下がった(入試の平均点は0.1点下がっただけ)。</li> <li>3 西高チャレンジ6年目となった。</li> <li>4 学習意欲が低く、かつ、提出物等の提出状況が改善されない生徒がいる。</li> <li>5 欠点数が微増した(H28中間延べ32名 → H29中間延べ37名)</li> <li>6 原級留置の生徒が再び出た(H25:2名, H26:1名, H27:0名, H28:1名)。</li> </ol>
-----	---

具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定期考査最終日に教室環境整備の時間を設ける(継続)。</li> <li>2 「呼びかけ事項」の徹底</li> <li>3 集会時等における学習意欲向上の呼びかけ</li> <li>4 欠点保有生徒に対する事前指導の推進</li> <li>5 授業チェックシートの実施(生徒・教員)</li> <li>6 将来を見据えた現状に見合う教育課程の編成</li> </ol>
--------	--

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 年5回の定期考査最終日に授業チェックシートを記入してもらう。</li> <li>2 定期考査最終日に教室環境を整理整頓する時間を設け、各学年部・クラスで整備してもらう。</li> <li>3 「呼びかけ事項」の定期的な確認をする。</li> <li>4 各集会時等において授業等への取り組みについて呼びかける。</li> <li>5 欠点保有生徒に対する指導を教務が各学年部においてし、原級留置生徒が出ないようにする。</li> <li>6 授業チェックシートから面談の必要な生徒との面談を実施する。</li> <li>7 教育課程検討委員会に対する意見集約と委員会の定期的、継続的開催をしていく。</li> </ol>
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 これまでの4回の定期考査で授業チェックシート実施</li> <li>2 これまでの4回の定期考査終了直後に教室環境整備を実施</li> <li>3 集会時に授業態度等についての呼びかけを行った</li> <li>4 各定期考査ごとに欠点3科目以上保有生徒と面談実施</li> <li>5 授業チェックシート実施から授業態度や出席状況に問題のある生徒と面談実施</li> <li>6 教育課程検討委員会を2回開催し、生徒数、教員数減に対処する教育課程の方向付けを行った</li> </ol>
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	新たに授業チェックシートを定期考査ごとに実施し、生徒と教師両面から授業の状況等について確認した。それをもとに授業態度や考査への取り組みなどに対する指導を事前に行った。方策として挙げた項目はほぼ実施できている。
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	B	方策は実施できていても、具体的な成果として現れているものは少ない。その中でも授業チェックシートにもとづく面談を継続したためか、欠点数は今年度増加傾向にあったが、二学期期末には減少に転じた[昨年比]。ただ、学校遅刻や考査の欠席などが課題として残っている。教育課程の編成についても、限られた条件の中で大きな変化に流されないよう取り組みを継続しなければならない。
------------------	---	--

評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C:具体的な活動がなされおらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	今後も具体的な取組がより効果的な取組となるように、各分掌と連携して進めてほしい。
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後に記載)	<p>授業チェックシートを継続して実施し、その活用方法について深化させていかなければならない。生徒との面談の結果をクラス担任や学年部にフィードバックしたり、授業に関する生徒側からの意見を各教科と共有するなどし、教師と生徒の信頼関係のサポートをしていかなければならない。</p> <p>教育課程の編成については、平成34年度から年次進行で実施される新学習指導要領を頭に入れながら、生徒数及び教員数の減に合わせた教育課程を臨機応変に編成していかなければならない。</p>
-------------------------------------	---

評価領域	生徒指導部
------	-------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西高生としての自覚と誇りを持ち、母校を愛する心を育成する。</li> <li>・思いやりの心、互いの立場や考え方を尊重し合い社会の一員として共に生きていくことができる開かれた心を育成する。</li> <li>・社会のルールやマナーを守る素直でさわやかな態度を育てる。</li> </ul>
------	--

現 状	<p>自信を持ってない生徒、所属意識が低く母校を愛する気持ちが弱い生徒が多い。社会のルール・マナーを守り、母校や自他共に大切にすることを育てていくことで、自信や自覚が強まり、誇りを持って高校生活を送れると考える。様々な場面で生徒に考えさせ、自らの将来を主体的に切り開いていくことのできるたくましい生徒を育成したい。</p>
-----	---

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶のできる生徒、高校生らしいさわやかな振舞いや身なりのできる生徒の育成。</li> <li>・いじめの予防、根絶に向けて行動できる生徒の育成。 (思いやりの心、互いの立場や考え方を尊重し合うことができる開かれた心を育成する。)</li> <li>・ルールやマナー、特に規律・時間・約束事を守る生徒、主体的に行動できる生徒の育成。</li> </ul>
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の励行指導、整容指導の徹底、乗車マナー遵守指導</li> <li>・「いじめ防止のための基本方針」に基づき、教職員の共通理解の下、いじめの防止やいじめの早期発見に努める。また生徒から相談等があった場合は「いじめへの組織的対応」に基づき対応する。</li> <li>・教育活動全体で思いやりの心や自他を尊重する心を育成するため、共感的な人間関係を作れるように支援体制を強化する。</li> <li>・教職員の共通理解と協力体制のもと、粘り強く生徒を支援していく。</li> <li>・教職員間の情報交換を密にし、学年部や他分掌、生徒会や委員会との連携を図る。</li> </ul>
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校一斉の整容指導が2年目となり、職員の共通理解も高まった。</li> <li>・保健部と連携し、マンスリーチェックから気になる生徒に関し情報共有を行った。また、個人票を作成し面接週間で活用した。</li> <li>・職員の協力の下、乗車マナー指導を昨年度より範囲を広げて実施しマナー向上に努めた。</li> </ul>
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校一斉整容指導が2年目となり、職員の共通理解も高まり少しずつはあるが、生徒の整容も改善されてきている。しかし、再指導に応じない生徒もあり、再指導のあり方やそのような生徒への対応に課題が残る。</li> <li>・職員による乗車マナー指導を秋田～刈和野間、大曲～刈和野間で実施し、生徒の通学状況を把握し、検証を行った。本校生徒の乗車マナーは地域からの指摘ほど酷いものではなかったが、毎年指摘されている事実があるので今後も継続して指導していきたい。</li> <li>・マンスリーチェックによって、生徒の心身の状況を把握することができ生徒への言葉のかけ方や対応の仕方を考えやすくなり非常に効果的であった。今年度は新たに個人票を作成し、面談で活用することで生徒との信頼関係を高める要因の一つとなった。</li> </ul>
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B	<p>整容指導は徐々に軌道に乗ってきているが、今年度も問題行動の発生件数は減少しておらず、整容指導の成果が問題行動の抑止にうまく繋がらなかった。様々な指導が単体のものならず繋がることで、本校生徒1人1人の自己有用感が高まっていくと考えられる。そのためにも職員の連携、各分掌との連携を大切にしながら様々なことに継続して取り組んでいきたい。</p>
------------------	---	--

評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	<p>いじめ防止対策、マンスリーチェックの活用など様々な工夫が見られる。その中で他人を思いやる心や尊重し合う心を育成してほしい。</p>
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後に記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ2年で実施してきた新しい取り組みは、今後も継続し、よりよいものとなるよう検討し、深化させていく。</li> <li>・他者との関わり方を学ぶ講座などを実施し、生徒のコミュニケーション能力の向上に努め、いじめ未然防止、デートDV予防などに繋げていく。</li> <li>・学校としての取組を保護者へ周知し連携を図る。</li> </ul>
-------------------------------------	--

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会や職業、個々の適性を理解させ、望ましい勤労観、職業観を育成する。</li> <li>・進路適性を見極め、早期に進路目標を定められるよう支援する。</li> <li>・希望進路を実現させ、社会に貢献できる人材に成長した姿で卒業させる。</li> </ul>
------	---

現 状	<p>目標をもって意欲的に取り組む生徒もいるが、明確な進路目標を持つことができずに漫然とした日々を送っている生徒も少なからず見受けられる。入学時から進路について意識させ、卒業後を見据えた行動ができるようキャリア教育の充実を図る必要がある。</p>
-----	---

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい勤労観の育成のため C-cubic の充実を図る</li> <li>・就職希望者合格率 100 % を達成する</li> <li>・進学希望者の第一志望合格率 90 % 以上を達成する</li> </ul>
--------	---

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C-cubic の実施において一事業ごとの見直しを短期的に繰り返すことでその充実と改善を図る。また、進路ガイドを全面的に見直して、C-cubic との連動性を高める。</li> <li>・生徒に対して皆勤を奨励し、社会で必要とされる素養を意識させる。また、教務部の読み上げ事項や教室の環境整備を大切にし、規律ある授業の下で学力を向上させる。</li> <li>・進路希望別の補習や模擬試験等を実施し、その結果を個別指導に活用する。</li> </ul>
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C-cubic 関連事業について、一事業ごとに見直し、次年度実施に向けた改善を図った。進路ガイドについては全面改定した。</li> <li>・学年皆勤を進路で表彰できるように準備を進めている。</li> <li>・学年主導で、長期休業等を利用した進路別模試や事業を実施した。また、多くの職員の協力の下、3年生に対する面接練習を行った。</li> </ul>
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C-cubic 事業の見直しについて、個々の事業に関しては実施できているが、各学年の年間事業や3年間のキャリア教育という観点ではまだまだ不十分である。</li> <li>・就職希望者は、特殊な事情を除いて内定している。</li> <li>・進学の最初の受験先での合格率は 88.5% (23/26 名) だったが、全く別分野への方向転換 1 名を除くと、希望した分野に 100 % 合格した。</li> </ul>
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B	<p>計画した事業を改善も加えながら実施した。各学年部の尽力に因るところが大きい。3年生の進路は、学年部の努力、さらに好景気にも支えられて何とか希望を実現できている。しかし、重点目標に掲げた「社会に貢献できる人材に成長」という点では必ずしも達成できたとは言えない状況にあり、キャリア教育全体の改善を進めていく必要がある。</p>
------------------	---	--

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	<p>キャリア教育の意義を確認しながら、学校全体の取組として推進してほしい。</p>
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後に記載）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C-cubic 事業の見直しの継続</li> <li>事業単位および年間：学年、3年間：入学から卒業まで</li> <li>・「考える」ことをテーマにした活動の導入</li> <li>・新入生からクリティカルシンキングを試行</li> <li>・外部の人的資産（地域の人材や卒業生）の活用</li> <li>・インターンシップ、講話等によるキャリア教育</li> </ul>
-------------------------------------	---

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事への積極的参加を促し、達成感を味わわせる。</li> <li>・部活動加入率を上げ、部活動の活性化を図る。</li> <li>・生徒会執行部を中心に地域を巻き込んだ取り組みを模索し、実行する。</li> </ul>
------	--

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による司会進行など生徒会執行部を中心に広がりつつある。</li> <li>・女子の加入できる部活動がバレー、バドミントンと少なく、活性化には至ってない。</li> <li>・さまざまな分野での地域貢献とはなっていない。</li> </ul>
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒の行事への主体的参加を促し、各種行事を生徒自ら成功へと導いていく。</li> <li>・部活動加入率減少の原因を突き止め、増加へと促進していく。</li> <li>・地域密着型の企画を模索、実施を目指す。</li> </ul>
--------	---

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部を発信源として行事に対する主体的意識を植え付ける。</li> <li>・バドミントン部で女子の入部が可能であることの周知など来年度以降の部活動のあり方を検討する。</li> <li>・各行事において地域との連携を検討し実施していく。</li> </ul>
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会が各委員会と連携して各種行事をリードしていく場面を増やした。</li> <li>・部活動紹介などでバドミントン部の女子の入部が可能であることを紹介したり、積極的に部活動勧誘を行った。</li> <li>・例年以上の地域との連携はできていない。</li> </ul>
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種行事や儀式において生徒会が安定した役割を担うことができるようになってきた。これをしっかりと継承していけるようにしていきたい。</li> <li>・バドミントン部の女子の加入はなく、バレー部、ソフトテニス部に関しても入部が少なく、女子の加入状況が非常に悪い。</li> </ul>
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B	生徒会の活動自体は安定したものになってきているが、昨年以上の活動はできなかった。部活動に関しても加入率を向上させることができず、もっとPRが必要であった。
------------------	---	---

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	女子の部活動加入率を上げるなど部活動の活性化に向けた取組を期待している。生徒が主体となった地域連携等の取組をさらに推進してほしい。
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後に記載）	生徒会は安定して活動することが出来ているが、例年以上の活動はできなかったように思う。部活動に関しては入試の受検者数を考えると、他校との合同チームや男子部への女子の加入も認めるなど柔軟性が必要になってくると感じる。今後の地域の生徒数を考えて早急に対策を講じたい。地域との関わりについても、現在行っている学年主導のボランティアを特別活動部として行うなど考えていきたい。
-------------------------------------	--

評価領域	保健部
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校環境衛生に努める。</li> <li>2 生徒の心身の健康増進に努める。</li> <li>3 学年や分掌との連携により対象を絞った指導の機会を生かす。</li> </ol>
------	--

現 状	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 環境美化に対する意識が低く、机・靴・ロッカー等の整理・整頓のできない生徒がいる。</li> <li>2 時間・場所に関係なく飲食しており、マナー上だけでなく、口腔衛生状態も悪い。</li> <li>3 規範意識が低く、人と関わるときに最低限のルールやマナーを守ったり、節度ある言動がとれない。</li> </ol>
-----	--

具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 環境美化に取り組む習慣をつけ、美化意識の向上を目指す。</li> <li>2 自ら身体的・精神的健康に留意し、健全な青年となるよう心がけることができる。</li> <li>3 情報提供の徹底により、良好な人間関係作りの援助をする。</li> </ol>
--------	---

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 清掃活動を通して、校舎を大事に使い大切にしていく心を育てる。</li> <li>2 「マンスリー・チェック」により身体面・精神面の健康を意識させ、改善を図る。また、保健だより等を利用して、保健衛生面の呼びかけをする。</li> <li>3 生徒指導部・スクールカウンセラーとの連携により、Q-U調査結果の分析、特別支援委員会との連携により、気になる生徒についての情報共有・協議をすすめる。</li> </ol>
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃割の工夫や用具等の整備により、清掃の効率化を図った。</li> <li>・マンスリー・チェックやQ-U検査により、生徒が自分を見つめる機会を作ったり、第2回面接週間を実施できた。</li> <li>・1年生を対象に性教育講座を実施し、命の大切さについて考えさせる事ができた。</li> <li>・特別支援員を招いて授業参観および特別支援委員会を開催し、気になる生徒への対応について助言を頂く事が出来た。</li> </ul>
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員・生徒数が減る中、美化意識の向上により、環境美化を保つことができた。</li> <li>・学年や関係分掌との情報共有を積極的に行い、生徒理解に努めた。</li> </ul>
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	B	様々な工夫と新たなチェック・検査等の導入により、環境美化・身体的精神的健康・他分掌との連携が図られた。
------------------	---	---

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	Q-Uアンケートやマンスリー・チェックの取組等、生徒理解に向けたさまざまな工夫は大いに評価できる。
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議会終了後に記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年部や関係分掌とさらに連携し生徒理解に努める。</li> <li>・年度末にマンスリーチェック個人票(全5回のチェック結果を入力済み)を生徒へ配布し、自己評価する場を設ける。</li> <li>・実施時期や質問事項等で改善を加えながら、定期的なマンスリーチェックの実施と日常生活および面接週間での活用を図る。</li> </ul>
------------------------------------	--



重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 図書の充実と図書館の活性化を図る。</li> <li>2 朝読書を継続し、図書館の利用を促す。</li> <li>3 H Pの充実と校内ネットワークの管理を行う</li> </ol>	
現 状	<p>図書司書がないため、きめ細やかな図書館の運営は難しいが、昨年度から昼休み図書委員と担当職員による開館は継続されており、利用者は限られているが、貸し出しと憩いの場として機能している。ネットワークの管理は情報部職員により徹底されている。</p>	
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 図書館の利用者を増やし、朝読書の充実につなげる。</li> <li>2 図書委員による貸し出しや広報活動を促進させる。</li> <li>3 H Pを充実させ広報活動に努める。</li> <li>4 個人情報の漏洩を防止し、その危機意識を保持する。</li> </ol>	
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 昼休み図書館当番の徹底。</li> <li>2 図書館利用を放送やポスター等で呼びかける。</li> <li>3 図書委員会で生徒が読みたい本の希望調査を行う。</li> <li>4 H Pの更新作業を適宜行う。職員LAN、スクールITの管理運営を確実に行う。</li> </ol>	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<p>生徒の当番に図書関係の職員もサポートし、開館することができた。H Pの更新を必要に応じて随時行った。校内LANをはじめ、P Cの管理、保守、トラブル対応を滞りなく行った。</p>	
達成状況 (1～2月記載)	<p>生徒の購入希望は無かったが、教職員互助会から生徒向けの書籍を寄贈してもらい、特設コーナーを設置した。昼休みの開館時には、静かな環境を好む生徒や、調べ物、読書をする生徒が利用した。H P運用ならびにP C管理は適切に実施できた。</p>	
自己評価 (1～2月記載)	B	<p>図書委員会の活動は図書部職員の協力により続けることができた。情報分野については適切に迅速に対応してもらい、概ね目標を達成できている。</p>
評価基準	<p>A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
学校関係者評価と意見	B	<p>図書館利用の活性化を含め朝読書をより効果的にしていく手立てを検討してほしい。「読んで欲しい本」の紹介など広報活動を推進してほしい。</p>
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後に記載）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書当番の定着を図る。</li> <li>・ 各クラスに図書館文庫のコーナーを設け、図書委員が管理する。</li> <li>・ 放送やポスターで利用促進の広報活動をする。</li> <li>・ 図書委員や職員おすすめの図書を紹介する。</li> <li>・ 生徒に適した書籍を購入する。</li> </ul>	

評価領域	研修部
------	-----

重点目標	1 教職員研修の充実に努める。 2 授業改善を図り、社会に貢献できる生徒を育成する。 3 研修成果の記録を目的として、研究集録「北ノ沢」を作成する。
------	--

現 状	1 職員の研修と修養に寄与すべく情報を提供すると共に、校内における職員研修を計画し実施している。 2 互見授業、研究授業、授業アンケートを実施し、授業改善に努めている。 3 教育活動の参考としてもらうため、多くの方々から研修成果を寄せてもらい、研究集録を発行している。
-----	--

具体的な目標	1 教職員研修の充実に努める。 2 授業改善を図り、生徒の主体的な学習活動を重視した指導を実施し、学力の向上と知識の定着を図る。 3 研修成果の記録を目的として、研究集録「北ノ沢」を作成し、その後の指導に活用する。
--------	---

目標達成のための方策	1 教職員研修会、互見授業研修、研究授業、授業アンケート等を効果的に行い、授業改善を図る。 2 各教科とも年1回の研究授業を実施し、そのうち指定の3教科の研究授業は、近隣の小・中学校にも案内をし、全職員で参観できるように企画する。 3 中堅教諭等資質向上研修や教職8年経験研修を学校全体でサポートし、その成果を共有する。 4 3月中に研究集録を発行し、本校職員及び関係機関に配布する。
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の授業アンケートを実施し、結果をまとめて報告した。</li> <li>・校内職員研修会、互見授業及び研究授業、他校種の授業参観を実施した。また、指定3教科の研究授業を計画し実施した。</li> <li>・校外研修や研究会、発表会等の案内を回覧し、周知を図った。</li> <li>・研究紀要発行のため、関係職員に原稿の依頼をした。</li> </ul>
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート、校内外の研修、互見授業、研究授業、他校種の授業参観等を実施し、授業改善につなげることができた。</li> <li>・職員全員がAEDの作動順を体験し、緊急時の対応について学んだ。</li> <li>・中堅教諭等資質向上研修や教職8年経験研修の成果を職員会議で発表し、研究紀要にも記録する。</li> </ul>
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B	全体的には概ね達成できた。互見授業研修の記録の仕方を工夫し、見える形にしていきたい。教員数の減少に伴い教科担当者1人の科もあり、教科内互見や研究協議がだんだん難しくなっている。
------------------	---	--

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	教科の枠を超えた授業研修会など参考になるものが多い。今後も生徒の学力向上に向けた教員のスキルアップをさまざまな研修を通して推進してほしい。
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後に記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校種、他教科の授業を参観することから得るものは多い。校務多忙な中でも参加できるよう検討する。</li> <li>・センター研修など校外の研修に参加して得た資料や成果を、職員会議等で職員に伝える機会を作る。</li> <li>・教員数減少に伴い、共通理解のもと、より効果のある授業研修を実施できるよう計画し、授業改善につなげる。</li> </ul>
-------------------------------------	---

評価領域	1年部
------	-----

重点目標	高校生としての基礎を築く ・ 基本的生活習慣を作り上げる。 ・ 学習習慣を身につけ、学習の基礎を定着させる。
------	--

現 状	・ 4月の緊張感のある生活の中では挨拶もしっかりしていたが、慣れとともに礼節に緩みが見え始めている。 ・ ロッカーの整理整頓の徹底を促しているのだが、少数ではあるが出来ていない生徒がいる。 ・ 良好な人間関係作りのためにもこれから始まる学校行事に積極的に参加させたいと思っている。
-----	--

具体的な目標	・ 挨拶や言葉遣い、礼儀をしっかりさせる。身だしなみを整えさせ、状況に応じた立ち居振る舞いができるようにさせる。期限や時間厳守を徹底させる。 ・ 学習環境を整え、落ち着いて学習に取り組ませるとともに、継続的な学習習慣を身につけさせる。 ・ 学校行事に積極的に参加させる。これらを通じて努力する姿勢や協調性を育む。
--------	--

目標達成のための方策	・ 挨拶などの礼節は繰り返し声をかけていく。 ・ 教室環境の整備に目を配り美化に努める。 ・ 学習習慣の定着していない生徒に面談を通じて改善を呼びかける。 ・ 学校行事や部活動への積極的な参加から努力する姿勢や協調性を学びとる。
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	一部に礼儀や整容について問題のある生徒がいるもののおおむね良好ととらえている。学習習慣の定着度は個人差が大きく、目標を持って努力している生徒は伸びているが、そうでない生徒の家庭学習への取り組み状況や課題提出状況への指導が必要である。進路については未定の生徒が多いのでさらなる声かけ、面談が必要である。学校行事への取り組みは良い。
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	問題行動のあった生徒のロッカーを見てみると、とても乱雑な状況であった。ロッカーの状況や普段の様子をさらに注意深く観察していく必要があったと反省している。また、進路目標を明確にするためにさまざまな投げかけをしているのだが、希望はまだ未定のままである。継続した投げかけ、声かけが必要と感じている。学校行事には積極的に参加する姿が見られた。
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B 運動部員が多く、挨拶は模範になってきているものの、態度であるとか振る舞いに問題のある生徒がいる。そこが来年度に向けての課題と思われる。学習に関してはまずは目標を持たせることが先決と思われるので、生徒への投げかけや声かけを来年度も継続する必要がある。
------------------	---

評価基準  
 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B 1年で「いのちの大切さ」をきちんと教えてほしい。ロッカーの整理整頓など教室環境の整備に目を配り、根気強く指導してほしい。
------------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後に記載）	今年度の目標の一つであった「学習環境の整備」を、来年度はより具体的に「ロッカーの整理整頓」と明記し、定期的な点検日を設定しながら改善を促していく。また、人間関係の構築を苦手とする生徒が多いことから、様々な活動や行事等を通して他者を尊重する態度を育成し、自己理解や他者理解を深めていく。
-------------------------------------	--

評価領域	2年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学習習慣を定着させ基礎学力を固める。</li> <li>2 集団の決まりを守り他者と共に生きる姿勢を培う。</li> <li>3 職業についての理解を深め進路目標を明確化する。</li> <li>4 特別活動に積極的に取り組み豊かな人間性を養う。</li> </ul>
------	---

現 状	<p>学習意欲の高い生徒と低い生徒の差が開いており、特に進路目標の定まっていない生徒に意欲の低下が見られる。一部の生徒に他者への配慮を欠く言動が見られ、集団のまとまりに齟齬をきたしている。</p>
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ベル着席と授業準備、授業への集中、家庭学習の習慣化をはかる。</li> <li>2 生徒事故の予防、整容の改善、あいさつの促進に努める。修学旅行を通して集団行動を身につけさせる。</li> <li>3 インターンシップの有効活用、進路行事への積極的参加、進路情報の活用をはかる。</li> <li>4 部活動・学校行事・校外行事への積極的参加を促す。</li> </ul>
--------	---

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信、集会、HR等を通じて問題の改善を呼びかける。</li> <li>・学年部内で情報を共有し、問題を抱える生徒には個別に指導する。</li> <li>・年間を通して計画的に進路指導や生徒指導を進める。</li> <li>・朝自習の時間に良い文章を読ませ考えたことを記述させる取り組みにより、豊かな情操を養う。</li> <li>・手帳を活用させて自己管理を徹底させる。</li> </ul>
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信、集会、HR等を通じて問題の改善を呼びかけた。</li> <li>・マンスリーチェック等をもとに問題を早期に発見し、面談により指導した。</li> <li>・計画的に進路指導や生徒指導を進めた。</li> <li>・朝自習の時間を活用して、文章を読ませて考えさせる取り組みを続けている。</li> <li>・朝自習に手帳記入の時間を設定し、手帳の活用を習慣化させた。</li> </ul>
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<p>計画的に進路学習を進めたことで、年度後半に入り、進路目標を定めて学習に取り組もうとする生徒が増えてきた。その一方で、依然として学習意欲が低く成績が低迷している生徒もいる。生徒が抱える問題に対し、早期発見・早期対応に努めてきたが、問題行動や退学者が出ることを防げず残念であった。今年度から始めた朝自習の時間の新しい取り組みは良い効果を上げている。</p>
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B	<p>学年の取り組みが一定の効果を生み、進路目標を定めて努力しようとする生徒が増えてきているが、それが学年全体の雰囲気になっているとは言えない。学習面、生活面ともに問題のある生徒達もあり、粘り強く改善を図っていかなければならない。</p>
------------------	---	---

評価基準  
A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	<p>進路指導については、来年度の年間の見通しを立て、早めの指導をお願いしたい。卒業生の合格体験談を聞かせる場などを設定し、進路意識を高めてほしい。</p>
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後に記載）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路相談や三者面談の機会を早い時期に設定し、個々の進路目標達成に向けて具体的な取り組みができるよう指導する。</li> <li>・教室環境の整備に力を入れる。特にロッカーや机の中を整理させる。</li> <li>・職場研修、職場見学、オープンキャンパス、ボランティア等への参加を促し、地域社会との連携を図ることで社会性を育成し、かつ進路意識を高める。</li> </ul>
-------------------------------------	--

重点目標	<p>「進路目標を達成し、社会の即戦力となる人物を目指す」</p> <p>1 進路目標達成のためにできることをすべて行う。          2 社会人として必要な知識とマナーを身につけ、心構えを作り上げる。          3 自分自身はもちろん、周囲の人や物を大切にする。</p>
------	---

現 状	<p>昨年度末から全体的に進路意識が高まっており、1学期の生活がいかにかに大切であるかを理解している生徒が多い。その一方で進路意識が希薄で、学校生活に意味を見いだせていない生徒もあり、周囲への影響が心配される。挨拶やマナー等は年度当初からしっかりと行うように指導しており、その成果が現れてきているように感じる。また、委員会活動や学校行事等で積極的に活動する生徒が多く見られるので、学年部全体にその意識が浸透するような手立てが必要である。</p>
-----	--

具体的な目標	<p>1 進路希望実現に向けて、計画的に活動させる。          2 場面に応じた適切な行動ができるよう指導していく。          3 学校行事や集団生活の中で、責任感や協調性、周囲への気配りなど思いやりの心を育む。</p>
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望に応じた時期に適切な声かけをし、生徒同士が周囲と協力しながら活動していく環境を作り上げる。</li> <li>・挨拶や期限厳守、正しい整容など社会人として必要な知識やルールを意識させ、継続的に声かけをする。</li> <li>・教室内やロッカー、廊下など身の回りの環境美化に努める。</li> <li>・進路決定後の生徒の生活や変化に目を配り、面談等を通じて適切な声かけをする。</li> <li>・学校行事等、クラスや学年全体で積極的に活動し、周囲と協力しながらやり遂げるよう取り組ませる。</li> </ul>
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SHRやLHR、学年通信等を通じて進路情報を伝えた。</li> <li>・分離礼やその場に応じた振る舞いなど、継続的に声かけをした。</li> <li>・教室内の環境整備に努めた。</li> <li>・進路決定者のみで集会を行い、気が緩まないように意識させた。</li> <li>・学校行事等、生徒主体で動くよう各クラスで働きかけた。</li> </ul>
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を自分のことと考えない生徒が多く、個別対応が必要だった。</li> <li>・状況に応じた立ち振る舞いができる生徒が多くなった。</li> <li>・教室内は比較的整っていたが、一部ガム殻等の投棄があった。</li> <li>・2学期に遅刻や欠席が増え、成績も振るわない生徒が多くなった。</li> <li>・クラス全体で協力し、3年生らしい学校行事にすることができた。</li> </ul>
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	<p>B</p> <p>最大の目標である進路決定はほぼ達成できたが、社会人として必要な力は未だ育っていないように思う。課題をやり遂げるために、自ら計画を立て目標を達成していく姿勢をもう少し意識させるべきであった。生徒会や学校行事では3年生らしく周囲と協力しながら積極的に活動できた。</p>
------------------	---

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされおらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<p>B</p> <p>これまでの指導のノウハウを他学年部へ継承してほしい。社会に出る人間として、しっかりと物事を考えることができる人間を育成してほしい。</p>
------------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後に記載）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次での明確な進路決定のためにもキャリア教育の継続指導が必要であり、他分掌と連携しながら学校全体で作りに上げていく。</li> <li>・基本的な生活習慣の確立に加え、周囲の整理整頓、計画的な行動等、自己管理ができる生徒を育成するために、引き続き正しい整容や環境整備の呼びかけ、手帳の活用などを徹底する。</li> </ul>
-------------------------------------	--

重点目標	授業の展開や形態の工夫を図ると共に、適切な教材を選択し、生徒の主体的な学びを促すことにより、学力の向上と知識の定着を目指す。
現 状	真面目に学習に取り組む生徒は多くなったが、興味関心を持つ範囲が狭く、反応が乏しい。 自分でものを考えたり、発言したりする力、協力して課題を解決する力をつけたい。
具体的な目標	1 生徒の興味関心を引く教材を選択し、教材研究・実践を行う。 2 生徒が主体的に活動する授業を実践する。 3 基礎学力の向上と知識の定着を図り、社会に貢献できる生徒育成する。 4 漢字検定 3 級以上の合格率を上げる。
目標達成のための方策	1 授業アンケート等に基づく授業改善を行う。 2 調べ学習や助け合いを導入し、生徒が積極的な動く授業を展開する。 3 繰り返し繰り返し学ぶことで、知識を定着させる。 4 大きな声で発言させる。 5 文字を丁寧に書く姿勢を促す。 6 国語辞典を全員に持たせ活用させる。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の授業アンケートを行った。</li> <li>・ペアワークやグループワークを適度に取り入れ、生徒同士で考えたり動いたりできる場面を設け、授業に参加できるよう工夫した。</li> <li>・使用語彙をふやすため、辞書を活用する時間を必ず設定している。</li> <li>・復習を大切にし、既習事項の反復を繰り返すことで理解の定着を図った。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか授業に集中できない生徒も、グループ活動の中では班員に助けられながら自分の役割を果たそうと取り組む姿が見られた。</li> <li>・自分1人で文章を読んだり、考えたりという活動になると学習に参加できなくなる生徒が多い。</li> <li>・生徒同士のみで考えさせたりすると飛躍しすぎる時も多々有り、軌道修正や適当なアドバイスを心掛けた。</li> <li>・普段のノート作りや漢字検定に向けて、文字の丁寧な書き方を不断に呼びかけた。</li> </ul>
29年度の課題及び30年度の具体的な対策	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた課題に対して黙々と1人で取り組むことが困難な生徒が多い。評論等の少し難解な表現が含まれている文章に対し、頭から拒絶を示す生徒の割合も多く感じる。</li> <li>・気分によって左右されがちな生徒を、授業に参加させるにはどうしたらよいか。</li> <li>・知的興味関心を示す範囲を開拓し、視野を広げていくことへの取り組み。</li> </ul> <p>[対策]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味関心を引く教材を選択し、アプローチや展開の工夫をし、自ら「理解しよう。学習しよう。」という態度を育成する。</li> <li>・語彙力の強化に務める。</li> <li>・漢字検定の合格率を上げる。</li> <li>・やるべきことは全員参加を崩さず、毅然とした対応と細やかな声かけをし続ける。</li> </ul>

評価領域	地歴・公民科
------	--------

重点目標	社会の変化に主体的に対応できる能力の育成と、現代社会に生きる国民として必要な基礎学力の定着をはかる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育段階での基本的な知識が定着できていない生徒が多い。</li> <li>・おおむね落ち着いて授業に取り組むが、社会的な事象や教科に対して主体的に取り組む姿勢に乏しく、学習意欲も個人差が大きい。</li> </ul>
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の興味・関心を引き出す教材を開発し、授業に取り組みやすい環境を設定する。</li> <li>(2) アクティブラーニング形式の授業を実践し、グループワークや発表の機会を設け、より主体的・協働的な学習活動を促す。</li> <li>(3) 主権者教育に力を入れる。</li> </ol>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材や実物教材など生徒の興味関心や学習意欲を引き出す教材の開発と授業実践に努める。</li> <li>・テーマ学習やグループ学習を通じて、自ら問題を解決し発表する授業の機会を設ける。</li> <li>・主権者教育の内容の授業を行う。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニング形式の授業を増やし、グループワークやペアワークによる話し合い、まとめ、発表等を通じて生徒の主体的・協働的な学習を促した。</li> <li>・視聴覚教材や実物を用いて、生徒の興味関心や学習意欲を引き出すよう心がけた。</li> <li>・単元毎に小テストを実施し知識の定着を図った。</li> <li>・日本史や、現代社会、政治経済において主権者教育を行った。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの中で学び合いを盛り込むことは、教える側、教わる側、双方にとってメリットがあった。</li> <li>・中学校段階の基礎的・基本的な知識が身に付いていない生徒がおり一斉授業等で基本をマスターさせた上でアクティブラーニングを行っている。</li> <li>・視聴覚教材やICTを活用することで、より興味関心を引き出すことができた。DVDを視聴する場合は、書き込み式のプリントを用意することで、より集中して視聴する様子が見られた。</li> </ul>
29年度の課題及び30年度の具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークでは、あまり積極的でない生徒や、発言が苦手な生徒もいるが、そうした生徒にも関心を持たせ、コミュニケーション能力を高めさせるよう創意工夫していきたい。</li> <li>・主権者教育は、地歴公民科以外の教科で実施している様子はないので、他教科においても計画的に実施してもらいたい。</li> </ul>

評価領域	数学科
------	-----

重点目標	生徒の学習意欲を喚起させ、基礎学力の定着と進学希望者の学力向上を図る。
現 状	義務教育段階の学習内容が定着しておらず、基本的な計算ができない生徒が少なくない。分数や小数、平方根には強い苦手意識をもつ生徒が多い。集中力が続かず授業に専念できない生徒もいるため、分かる喜びを感じる機会をつくり、気持ちを授業に向ける必要がある。
具体的な目標	実態に応じて学習内容を精選する。基本的内容をくり返し学ばせ、基礎学力を育み、達成感を得ることができる授業を展開する。 多様な進路希望の実現に向けて指導の機会を充実させる。学び直しや補習等をとおして基本的・発展的内容を指導する。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内容を精選し作業的な活動を多くする。飽きさせない授業と達成感を感じる授業を行う。</li> <li>2. 学習習慣を身につけさせるために、課題等の提出物の提出を徹底して指導する。</li> <li>3. 1年生に学び直し学習を実施し、基本的内容の確認と学習意欲の向上を図る。</li> </ol>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導する内容を精選し、実状と生徒の興味・関心を考慮した授業を実施している。</li> <li>2. 週末課題や長期休暇課題等の提出を徹底して指導し、その成果を評価に加味している。</li> <li>3. 学び直し学習は、基礎的内容の振り返りと苦手な学習内容の反復練習を行うなど計画通り実施した。</li> </ol>
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎基本の定着を図り、学習内容の精選をして生徒に「分かる」授業を心掛けた。</li> <li>2. わずか数人の未提出者や遅れて提出する者はいるが、概ね良好といえる。</li> <li>3. ほとんどの生徒の小学校や中学校でのつまずきを改善することができ、生徒の数学に対する苦手意識を無くすことができた。</li> </ol>
29年度の課題及び30年度の具体的な対策	<p>[課題] 学習意欲の向上と高校から学ぶ内容の定着である。 高校入試の数学の点数から、数学を苦手とする生徒が多く入学してくることがわかるが、「学び直し」を1年次に実施することで苦手意識を克服して基本的な内容でつまずく生徒が減ってきている。しかし、難しい内容や計算が多く複雑な内容になると、すぐに投げ出す生徒が少なくない。</p> <p>[対策] 考える授業や活動のある授業を展開し、学習意欲の向上を図り、難しい内容や計算が複雑な内容は、指導法を工夫して生徒にわかりやすく教えて、生徒の実態に沿った授業を展開して定着を図りたい。</p>



評価領域	理科
------	----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着に努め、基礎学力の向上を図るとともに、上級学校進学にも対応できる学力を養う。</li> <li>・科学や科学技術に興味・関心をもつ生徒の育成に努める。</li> </ul>
現 状	<p>身近に起きている事象について、あまり疑問をもたずに生活しているように見受けられる。目の前の事象に隠れている疑問点について話題にすると興味を示す生徒も少なくないため、なるべく疑問をもたないように生活してきた様子がかがえる。これは高校入試までテストで高得点をあげられなかったことで、学問に対して萎縮してしまっているようにも見える。生徒たちが本来もっていた好奇心を引き出し、自尊心をもたせられるよう指導する必要がある。</p>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組みを大切にし、基礎基本の定着を図るとともに、大学入試レベルの内容にも取り組ませる。</li> <li>・自然科学への興味関心を高め、学習活動に意欲的に取り組ませる。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な科学事象を積極的に取り上げ、生徒が興味をもてる魅力ある授業の展開や教材の工夫に努力するとともに、レポート課題や授業中の発表等、自然科学に対する関心や授業への取り組み姿勢を評価し、成績に反映させることで学習意欲の向上を図る。</li> <li>・授業内容に復習的項目を取り入れて、反復して学習できるよう授業展開を工夫する。また、考査問題や授業の演習問題に上級学校の入試問題を取り入れて、取り組めばできることを実感させる。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの科目においても身近な話題から授業を展開するよう心がけた。また、科目による差はあるが、レポート課題や時間ごとの提出物などの日常の取り組みを成績評価に反映できるよう工夫した。</li> <li>・定期考査前だけでなく、単元ごとにまとめ（復習）の時間を設け、学習内容の定着を図った。また、取り組み内容が考査成績に反映しやすいよう、実施方法や考査問題を工夫した。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の取り組みが成績評価に連動することにより、多くの生徒は良好な姿勢で活動できているが、意欲的に取り組むことが難しい一部の生徒に対する手立ての必要がある。</li> <li>・単元ごとのまとめの時間など、生徒どうして学びあう姿も見られ、成長していると感じる。主体的に学ぶ姿勢が生徒全体に広がるよう、さらなる取り組みが必要と考える。</li> </ul>
29年度の課題及び30年度の具体的対策	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反応も良く、一見すると好奇心旺盛で積極的に授業に参加している生徒が多数見受けられるが、『単なる好奇心』で『知的好奇心』とは大きくかけ離れている場合も少なくない。入学段階での学力不足は否めないが、知ることや考えることの大切さを理解させる必要がある。</li> <li>・数を扱うことを非常に苦手としている生徒が多く、化学など、科目によっては基礎部分の説明すら理解できない場合がある。また、ある程度理解する能力があっても学習意欲が低く、取り組み不足により理解に至らない生徒も見受けられる。</li> </ul> <p>[対策]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や教科、科目に限らず、「学ぶことの意義」や「取り組むことによって身につく、鍛えられる能力」について、丁寧に説明し、生徒が理解できるように伝えることが先決と考える。</li> <li>・生徒にとって、自然科学がより身近で興味を持つことができるよう、授業内容の精選に努め、工夫していくのはもちろん、「考える」機会を多く持つ必要がある。</li> </ul>

重点目標	各種運動の基礎基本技能の習得と運動に対する意識を向上させ、生涯スポーツにつなげる
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動が好きで積極的に活動する生徒と運動が嫌いで意欲のない生徒の二極化。後者は特に女子に多く見られる。</li> <li>・リーダーシップを発揮できる生徒が少ない。</li> </ul>
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体的・協働的に活動できる生徒の育成。</li> <li>2 新体力テストの得点の向上。</li> <li>3 年間を通じて見学者や体育着忘れをゼロに近づける。</li> </ol>
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒を飽きさせないメニューや体ほぐしの導入。そのための校内研修や校外研修への積極的参加。</li> <li>2 新体力テストへの事前指導。導入で補強運動やランニングを継続する。</li> <li>3 生活習慣を確立させるための生活指導。</li> </ol>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で練習メニューを生徒に考えさせたり、反省を発表させたりするなど言語活動の充実を図り、アクティブラーニングの観点から授業を展開していくように心がけた。選択種目に新しい種目も取り入れ、意欲向上を図った。</li> <li>・新体力テストへの事前指導として、2時間程度時間を取り練習に取り組む時間を設けた。業者による集計で生徒に合った運動を処方することができるようになり、来年度の新体力テストへの意欲を向上させた。</li> <li>・授業の終始の集合・整列および保健の授業の際に、生活習慣の改善のための指導をした。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい選択種目やこまめに選択を変更することで、生徒も飽きることなく授業に積極的に取り組む姿が多く見られるようになった。</li> <li>・新体力テストは業者の集計により、前年度との比較ができるため、真剣に取り組む姿が見られ向上はしているようであるが、2、3年生において、意欲に欠ける面が見られ、全力で取り組んでいない現状があった。</li> </ul>
29年度の課題及び30年度の具体的な対策	<p>[課題] 新体力テストで全力を出すことが恥ずかしいと感じる生徒が女子や一部男子生徒に見られる。このような生徒は日々の授業の中での取り組み方も良いとは言えず、どのように主体性を持たせるかが課題である。</p> <p>[対策] アクティブラーニングや生徒達自身に考えさせることで、主体性を養い、少しでも運動嫌いの生徒たちの活動改善につなげられるようになればと思う。体ほぐしなども有効に活用し、簡単な運動に親しむことで、運動を好きになり、生涯体育につなげられるようにしたい。原則として男女共修とすることになっており、単元によっては独自のルールを設けたりしながら、両者の意欲を向上させ、雰囲気作りをしながら、授業に活気を出していきたい。</p>

評価領域	芸術科
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い活動を通して、芸術に対する興味・関心を高め、個々の表現力の向上と生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術に触れる機会が少ないため、その良さを味わうことができず嗜好が偏っている。</li> <li>関心、意欲や知識、技能に個人差が大きい。</li> <li>自分の考えや思いを言葉や形として表現できない生徒が多い。</li> </ul>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術に真剣に向き合う姿勢を引き出し、創造的に表現する力を育む。</li> <li>芸術を楽しみ、表現する喜びを感じさせる。</li> <li>知識、技能を向上させ、主体性、協調性を持って活動する力を育てる。</li> </ul>
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>レベルにあった課題設定や個別指導を行う。</li> <li>関心を高め、意欲的に取り組む教材を開発する。</li> <li>ペア、グループ、全体と発表や発言の場を段階的に設定し、学び合いの機会を設ける。</li> </ul>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>楷書から篆書までの五書体の他に仮名文字も扱い全ての書体の様々な文字に触れさせ、魅力の追体験をさせた。(書)</li> <li>ペアワークやグループワークも取り入れて自他の作品への興味関心が増すように工夫した。(書・音)</li> <li>クラスの数や能力に応じて、課題の難易度を多少変化させたり、個別指導に時間を費やすなどの対策をした。(音)</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>向上意識の高い生徒が多い。他者からのアドバイスを自分なりに解釈し、取り入れることで著しく作品の変容が見られた生徒もいた。ただ単にきれいに整えて表現することだけが目標ではないので、思わぬところで素晴らしい能力を発揮してくれる生徒もいた。</li> <li>2年生はグループ活動にも主体的で、向上心を持って取り組み、知識や技能を高め合うことができた。</li> <li>1年生は能力の低い生徒の関心意欲を高めさせることが困難だったため、全体として達成できていない部分が多かった。</li> </ul>
29年度の課題及び30年度の具体的対策	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選択がなくなり、得意な生徒と不得意な生徒の差がこれまで以上に大きくなった。苦手な生徒にも関心、意欲を持たせるような教材の研究と指導法を改善しなければならない。</li> </ul> <p>[対策]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>苦手意識の高い生徒の小さな変容にも目を向け、詳細に評価し、意欲を持たせる</li> <li>表現・鑑賞・創作の各分野を万遍なく行い、得意分野に偏らないようにする。</li> <li>グループワーク等を効果的に行い、主体的に学び合いながら達成感を持てるような授業の改善。</li> </ul>

評価領域	英語科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒が主体的・協働的に学習に取り組み、基礎学力を身につけるよう指導する。</li> <li>2 実践的コミュニケーション能力を高める指導を行う。</li> </ol>
現 状	<p>生徒は英語に対する興味・関心は多少なりとも持っているが、基礎的な知識が定着しておらず、苦手意識が強い。また、家庭学習の習慣が十分身につけていない。</p>
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の興味・関心を高める教材や活動内容を工夫する。</li> <li>2 生徒の基礎学力の向上と知識の定着を図る。</li> <li>3 ノート・辞書指導を充実させ、家庭学習を習慣づける。</li> </ol>
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ALTを活用し、英語に対する興味・関心を高め、英語が通じる喜びを感じさせる。またスピーキングテストとリスニングテストを評価に取り入れる。</li> <li>2 ペア・グループワークやプレゼンテーションを取り入れ、生徒の主体的な活動を増やす。</li> <li>3 西高チャレンジでの指導を工夫し基礎力を定着させる。英語科通信を継続して発行する。</li> <li>4 1年生と2年生進学クラスの英語検定全員受検など、検定受検の機会を作る。</li> </ol>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ALTとのTTを行い、積極的に英語を使用する機会を設けた。また、ALTの協力を得てスピーキングテストを実施した。</li> <li>2 授業の中で随時ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションの活動を実施した。</li> <li>3 西高チャレンジでは生徒が苦手とする文法事項を重点的に復習させた。</li> <li>4 英検全員受験では、級毎に問題演習やリスニング練習を行い、授業で対策を行った。</li> </ol>
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1学期はTTを計画通りに行えないこともあったが、2学期以降は計画通りに実施でき、スピーキングテストでは生徒のモチベーションや達成感が高まった。</li> <li>2 生徒が主体的に活動する場面は増えたが、中には前向きに取り組めない生徒もいた。</li> <li>3 生徒は基本事項を確認しながら問題演習を行い、ある程度知識を定着させることができたが、苦手意識が強い生徒にとっては難しい内容となってしまったように思われる。</li> <li>4 英検の一次試験合格者が昨年度より増加した(準2級2名(1名増)、3級16名(6名増)、4級22名(1名増))。</li> </ol>
29年度の課題及び30年度の具体的な対策	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語に対する苦手意識が強く、授業に意欲的に取り組むことができない生徒がいる。</li> <li>・基礎的知識がなかなか定着しない。</li> <li>・英語検定の受験料が高く、強制的に全員受検させるのは難しい。</li> </ul> <p>[対策]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が関心を持つ話題や活動を取り上げる。スピーキングテストを継続して行い、生徒の達成感を向上させる。</li> <li>・西チャレの教材を活用する。また、指導法を工夫する。</li> <li>・英語検定は希望者の受検とする。また、生徒の英語学習への動機付けとなるような活動を企画する。</li> </ul>

評価領域	家庭科
------	-----

重点目標	生活面での自立ならびに家庭生活を営むために必要な基本的知識と技術を身に付け、主体性と協調性を育成する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に学習に取り組む生徒がほとんどである。実習では苦手意識のある生徒もいるが、協力しあいながら真面目に取り組んでいる。</li> <li>・整容・挨拶等の良い習慣を定着させ、自信を持って行動できる生徒を育成する必要がある。</li> </ul>
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎的知識と技術を習得する。</li> <li>2 他を思いやり、主体的、協力的な態度を育成する。</li> <li>3 礼儀正しく、自信を持って行動できるようにする。</li> </ol>
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の実態に即した教材を精選する。</li> <li>2 実習や演習などの体験的学習を各単元で実施し、主体性と協調性を育成する。</li> <li>3 授業態度、挨拶等について、繰り返し指導して定着させる。</li> </ol>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各学年の生徒の実態に応じた教材を精選した。</li> <li>2 グループワークやペアワークを各科目で取り入れた。校外実習は、受け入れ先の施設側に理解を頂いた上で、実習日時と内容等に関して十分に連絡を取り合い、予定通りに実施できた。また、今年度は管理栄養士や手話通訳士など外部講師を活用した授業も実施できた。</li> <li>3 授業開始前に学習準備についての確認を行い、学習姿勢を整えさせてから授業を行っている。発表時は、起立して意見を述べるよう心掛けている。</li> </ol>
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の実態に即した教材を精選し、基礎的知識と技術の習得を目指して取り組んできた。さまざまな形態の体験活動を複数回実施することにより、主体的に行動できるようになっている。</li> <li>2 教師主導の授業と異なり、自分で考え、グループで意見をまとめ、発表するという活動は、当初の計画通りにならないこともあり、柔軟に対応しなければならない時もある。しかし、さまざまな形態の体験的学習活動を複数回実施することで、協調性、主体的な発言、発表態度等において、生徒の確実な成長を実感している。生徒の自立に向けた学習として有効と考えている。</li> <li>3 授業を受ける際の学習準備について、呼びかけや確認を継続的に実施することで、全体的には自覚と向上が見られる。しかし、チャイムがなっても落ち着かず、授業に入るまでに時間がかかるクラスもある。教師側で余裕を持って指導するために、早めに教室で待機したり、授業の準備を入念にするなどの対応をした。</li> </ol>
29年度の課題及び30年度の具体的な対策	<p>生徒が将来、自立して生きるための力を身につけることができるよう、指導を継続していきたい。体験的学習について、新たな取り組みの効果を実感できたので、今後も改善を加えながら継続していきたい。</p> <p>各科目の単元において、時間がかかる体験的活動を、どのように取り入れていくか検討し実践していきたい。</p>

評価領域	福祉科
------	-----

重点目標	福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、福祉の心を育成する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフデザインコース3年生の受講科目である。実習等に積極的に取り組む生徒が多い。</li> <li>・異なる年齢層の人との関わりを通して、成長させていきたい。</li> <li>・礼儀正しく、自信を持って行動できる生徒を育成する必要がある。</li> </ul>
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎的な知識と技術を習得させる。</li> <li>2 福祉の心を育てると共に、主体的、協力的な態度を育成する。</li> <li>3 礼儀正しさを身につけ、自信を持って行動できるようにさせる。</li> </ol>
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の実態に即した教材を精選する。</li> <li>2 地域の施設等の協力を得て、各单元において複数回の校外実習を実施する。</li> <li>3 整容・挨拶・実習の取り組みについて、記録や自己評価を通して自覚させ、改善と成長を促す。</li> </ol>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の実態に即した教材を精選できた。また、ペアワークやグループワークを適宜取り入れ、生徒たちが互いに学び合い、知識と技術の習得に取り組むことができた。</li> <li>2 校外実習は、「社会福祉基礎」において、愛幸園実習を2時間×4回実施し、「課題研究」において、ウオームハート実習を2時間×3回実施した。受け入れ先の施設側に理解を頂き、実習日時と内容等に関して十分に連絡を取り実施した。また、社会人講師活用事業において介護福祉士による講義演習を2時間×4回実施、秋田看護福祉大学教授による講義演習を2時間×2回実施した。実習日の段取り等大変な部分もあったが、生徒にとってはより専門の知識を得る事が出来た。</li> <li>3 授業開始前に、学習準備についての確認を行い、実習時の整容にも注意を促した。発表する際の挨拶や返事等の礼儀や、発表態度について自覚と注意を促した。</li> </ol>
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の実態に即した新たな学習活動を数種類取り入れ、実践させた。さまざまな活動を回数を重ねて行うことにより、考える力、協調性、主体性などの点で成長が見られる。</li> <li>2 受け入れ施設側の理解と協力、及び大仙市福祉車両貸し出しの承認により、数多くの施設実習を実施することができた。年齢層の異なる多くの人と交流するこうした活動を通して、周囲を観察し、柔軟に対応する力や仲間と協力する態度、思いやりある行動ができる福祉の心が育成されている。</li> <li>3 毎回、授業開始時の呼びかけや確認を行っている。授業への意欲を継続させる工夫もしている。発表は、礼儀正しく自信を持って行うことができる生徒が増えてきた。</li> </ol>
29年度の課題及び30年度の具体的な対策	<p>校外実習は、受け入れ施設の理解の上に、複数回にわたる交渉、生徒への事前指導、事後指導、教師側の事前準備等があり、負担も大きい。しかし、学校外の場所で、様々な方と触れあう体験活動を通して、生徒が自ら気づき学ぶ貴重な活動である。今後とも、各施設からの信頼を失うことなく、継続して実りある実習ができるよう、きめ細かい指導を行っていきたい。校内実習に関しては、今後とも物品や設備の充実を図りながら、より良い活動が出来るようしていきたい。</p> <p>基礎的な知識を得る学習と、生徒の主体性を養うための体験的活動をどのように取り入れるか検討を加えて、実践していきたい。</p>

評価領域	商業科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 商業科目に興味を持たせ、経済社会の一員としての基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。</li> <li>2 経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。</li> </ol>
現 状	<p>・高校から始まる新しい教科ということ意識させ、始めが大切であることを繰り返し伝えることで、懸命に取り組む姿が見られる。また、資格取得の意義と大切さを理解し、合格したいという強い気持ちで授業に臨む姿勢が見られるようになった。授業内でビジネスマンとしての立ち振る舞いを意識させ、授業以外の面でも社会人としてのルールやマナーを心がけるように指導している。</p>
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 指導方法の工夫に加え、学習の手段として資格取得に積極的に挑戦させる。補習・個別指導を充実させる。</li> <li>2 ビジネスに対する心構えや倫理観を育成するため、毎時の授業でルール・マナーを徹底し、整容面も正させる。</li> </ol>
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の立場に立ちながらわかりやすい授業を心がけ、基礎・基本をしっかりと定着させる。</li> <li>2 検定には積極的に取り組みせ、補習・個別指導を行うなどし、合格率を上げる。</li> <li>3 授業開始時の整容指導を徹底すると同時に、なぜマナーや整容面を正すのかを考えさせ、自発的に行動できるように促す。</li> </ol>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 反復しながら基礎・基本部分に時間をかけた。また、具体例を挙げながらわかりやすい説明を心がけた。</li> <li>2 新たに電卓検定に取り組むことができた。個別指導は実施できたが、全体の補習はできなかった。</li> <li>3 学習用具の確認、分離札などを定着させるため声かけをした。気がついた整容は整えさせた。</li> </ol>
達成状況 (1～2月記載)	<p>2年生ビジネスコースでは立ち振る舞いやルールなど徹底して指導した結果、お互いに注意し合う環境ができた。基礎部分で躓いた生徒が数名おり、補習の必要性を感じた。また、内容が難しくなるにつれ授業が楽しくないと感じている生徒が増えてきた。資格取得に向けては全体的に取り組む状況が良く、合格率も高かったが真剣に取り組むことができない生徒がいるため、指導が必要である。3年生は2学期以降、卒業後に必要な知識や立ち振る舞いなど伝えながら、社会人としての心構えを少しずつ作り上げるよう指導したが、まだ実感が湧いていない生徒が多くいる。</p>
29年度の課題及び30年度の具体的対策	<p>[課題] 簿記・情報処理共に問題文を読む力が不足しており、文章が少し変わると何を問われているのか分からなくなる生徒が多い。そのため、少し難しい内容に入ると、やる気を失い諦める傾向にある。 卒業後就職する生徒が多いため、整容や挨拶等含め、社会でのルールなどを伝えている。しかし、提出物が遅れたり忘れ物をしたりする生徒がまだいる。</p> <p>[対策] 問題を多く解き、文章のパターンに慣れさせると共に、苦手意識を克服させるために、成績下位者対象に簡単な問題を繰り返し解くような補習を実施する。 授業時の整容、立ち振る舞い、時間・期限厳守を引き続き指導し、2年生の早い段階から社会に必要な力であることを意識させながら授業に臨ませる。</p>

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 メディアや情報モラルについて理解させ、状況や目的に応じて適切に判断できる力を育む。</li> <li>2 情報の正確な伝達と豊かな表現ができる技能を身につけさせる。</li> <li>3 情報社会に即した意識と態度を形成させる。</li> </ol>
現 状	<p>コンピュータ操作に対して苦手意識を持つ生徒もいなく、積極的に授業に取り組んでいる。また、4月のうちにモラルやインターネット・コンピュータの常識を学び、授業内でも規律を守って学習できている。今後も社会で生かせるような知識を身につけさせていきたい。</p>
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知識・技能の基礎を徹底し、総合力の底上げを図る。</li> <li>2 個々の能力差に合わせた展開・指導を徹底する。</li> <li>3 授業の指示を明確にし、各自が集中して取り組める授業空間を作る。</li> </ol>
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 適宜に学習内容を確認し、知識・技能の定着を補助する。</li> <li>2 個人ごとの能力を詳細に把握し、進度に応じた課題や目標に取り組ませる。</li> <li>3 全体・個別への指示を明確にし、節度ある態度で望むよう指導する。</li> </ol>
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションからの授業内容がスムーズに進んだため、難しい分野に時間をかけた。</li> <li>・時間にゆとりを持って進み、個々の能力に合わせてながら全体的に遅れる生徒が出ないようにした。</li> <li>・個々の能力差をできるだけ少なくするよう、毎時間タイピング練習をするように心がけた。</li> <li>・タイピングに興味関心を持つことができるように、取り組みやすいソフトウェアを使用した。</li> </ul>
達成状況 (1～2月記載)	<p>毎時間タイピング練習をすることにより、個々の能力差を少し埋めることができた。その結果、授業内容が順調に進み、難しい分野に時間を割くことができた。また指示内容を具体的に説明し、課題等を視覚的に提示することにより生徒は集中して取り組むことができた。</p> <p>情報の取り扱いについて、注意すべきことが未だ浸透していないと感じる場面が見られた。スマートフォンの取り扱いや情報社会に即した態度やモラル等、個々の意識を高めるまでには至っていない。</p>
29年度の課題及び30年度の具体的対策	<p>[課題]</p> <p>コンピュータ室では、スクリーンで課題等を提示しながら授業を進めるため、クラスによっては全体に目が行き届かない場面も見られた。タイピング等に時間をかけ実技面での能力は上がったが、その反面座学の内容については伝え切れていない部分もあり、情報の扱いに対する意識の低さを感じる場面が見られた。</p> <p>[対策]</p> <p>スクリーンで提示する場面と、机間巡視をする場面を使い分け、全体に目が行き届くようにする。また、話しを聞くときにはパソコンを使用できないように操作する。</p> <p>情報社会の陰の部分を実実問題や具体的な例と共に伝え、モラルをもって行動することの大切さを重点的に指導していきたい。タイピング等を含め、実技指導も充実させたいので座学とのバランスを考えていきたい。</p>